

年号：2020年

月日：7月3日～31日

災害名：令和2年7月豪雨の概要

球磨川位置図



出典：国土地理院

【令和2年7月豪雨の概要】

- ・令和2年5月9日から7月31日にかけて、活動の活発な梅雨前線や発達した低気圧の影響により、沖縄地方から東北地方にかけての各地で大雨となった。特に、7月3日から7月31日にかけて、日本付近に停滞した前線の影響で、暖かく湿った空気が継続して流れ込み、各地で大雨となり、人的被害や物的被害が発生した。気象庁は、顕著な災害をもたらした7月3日から7月31日までの一連の大雨について、災害の経験や教訓を後世に伝承することなどを目的として「令和2年7月豪雨」と名称を定めた。
- ・熊本県球磨川流域では、7月2日から同月31日にかけて本格的な大雨となり、熊本県球磨郡あさぎり町では72時間降水量が統計開始最大の660mmを記録した。

▼令和2年7月豪雨による球磨川水系の被災状況

死者（人吉市、球磨村）	42名
浸水戸数	約7,400戸
浸水範囲	1,060ha

出典：資料「令和2年7月豪雨による被害状況等について」（内閣府）
資料「令和2年7月豪雨による被害と対応」（国土交通省）

【令和2年7月豪雨の被災状況】



▲流木が堆積した球磨川水系中園川



▲護岸が崩落した球磨川水系芋川



▲土砂が堆積した球磨川水系市之俣川



▲土砂が堆積した球磨郡球磨村神瀬

出典：「権限代行河川（県管理区間）の被災・復旧状況」九州地方整備局 八代河川国道事務所 HP

【令和2年7月豪雨の被害状況】

資料4 被害状況

○令和2年7月豪雨による被害状況

■人的・住家被害の状況（令和3年1月7日14時00分現在 消防庁資料より）

都道府県	人的被害					住家被害					
	死者 人	行方 不明者 人	負傷者		合計 人	全壊 棟	半壊 棟	一部 破損 棟	床上 浸水 棟	床下 浸水 棟	合計 棟
			重傷 人	軽傷 人							
青森県										1	1
岩手県									1	28	29
秋田県								3	10	77	90
山形県			1		1	1	62	7	150	555	775
福島県				1	1					26	26
栃木県										0	0
群馬県								1			1
埼玉県								77		2	79
千葉県										2	2
東京都									3		3
神奈川県				1	1			6	1	9	16
新潟県									3	49	52
富山県	1				1						1
福井県										3	3
山梨県										4	4
長野県	1		2		3		1	4	5	109	119
岐阜県			1	1	2	6	36	85	31	304	462
静岡県	1				1		2	41	12	59	114
愛知県							1	8		20	29
三重県								9	7	8	24
滋賀県									1	12	13
京都府				2	2		1	7		29	37
大阪府								4		1	5
兵庫県						2			4	1	7
奈良県									1	2	3
和歌山県				1	1			3		6	9
島根県						2	40	3		52	97
岡山県							1			17	18
広島県	2		2	1	5	1	11	15	4	111	142
山口県							4		17	192	213
徳島県						1					1
愛媛県	2			1	3	1	2	34	5	67	109
福岡県	2		5	4	11	14	992	977	681	1,920	4,584
佐賀県				3	3	2	9	7	25	144	187
長崎県	3		1		4	4	3	4	124	136	271
熊本県	65	2	10	34	111	1,490	3,092	1,940	329	561	7,412
大分県	6		1	1	8	68	209	202	129	469	1,077
宮崎県						4	3		2	13	22
鹿児島県	1			4	5	25	35	66	136	300	562
合計	84	2	23	54	163	1,621	4,504	3,503	1,681	5,290	16,599

- 180 -

出典：「災害時気象報告 梅雨前線等による令和2年5月9日から7月31日にかけての大雨等」
気象庁（R3.3.12）

【令和2年7月豪雨の人的被害の状況】

2. 令和2年7月豪雨の被害状況(人的被害の状況(犠牲者の年齢構成等))

36

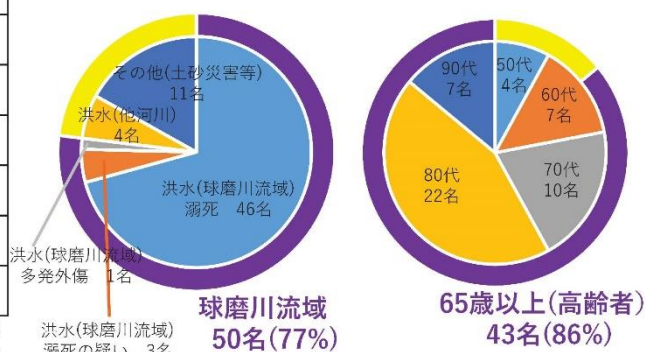
- 令和2年7月豪雨による県内の犠牲者は65名。その内、球磨川流域の犠牲者は50名と推測され、全体の77%を占める。
- 死因は、49名が溺死(疑いも含む)、1名が多発外傷。
- 市町村別では、球磨村が最も多く25名。人吉市が20名。
- 犠牲者は、65歳以上の高齢者が86%。また、75歳以上の高齢者が70%(35名)。

市町村別犠牲者数

	全体	うち 球磨川流域
球磨村	25	25
人吉市	20	20
芦北町	11	1
八代市	4	4
津奈木町	3	0
山鹿市	2	0
合計	65	50

※犠牲者数については、熊本県災害対策本部会議資料(熊本県警察本部提供資料)を基に記載。
 ※球磨川流域の犠牲者数については、熊本県災害対策本部資料(熊本県警察本部提供資料)の「住所」と「死因」等から推測

犠牲者(全体65名)内訳
 犠牲者(球磨川流域50名)年齢構成

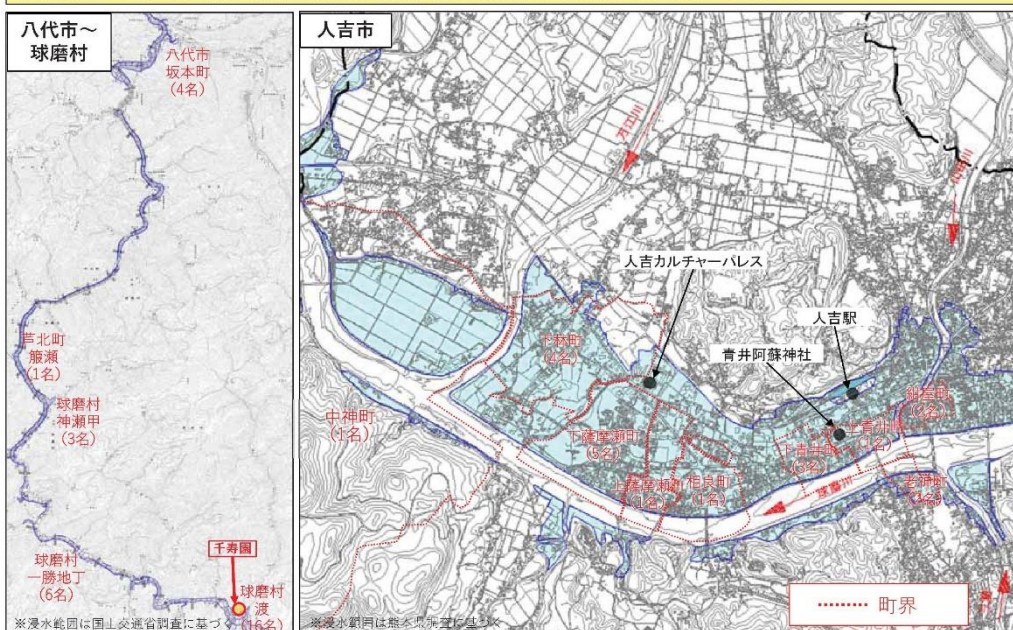


※被害内容については、今後、変わる可能性があります。

2. 令和2年7月豪雨の被害状況(人的被害(発生場所の状況))

37

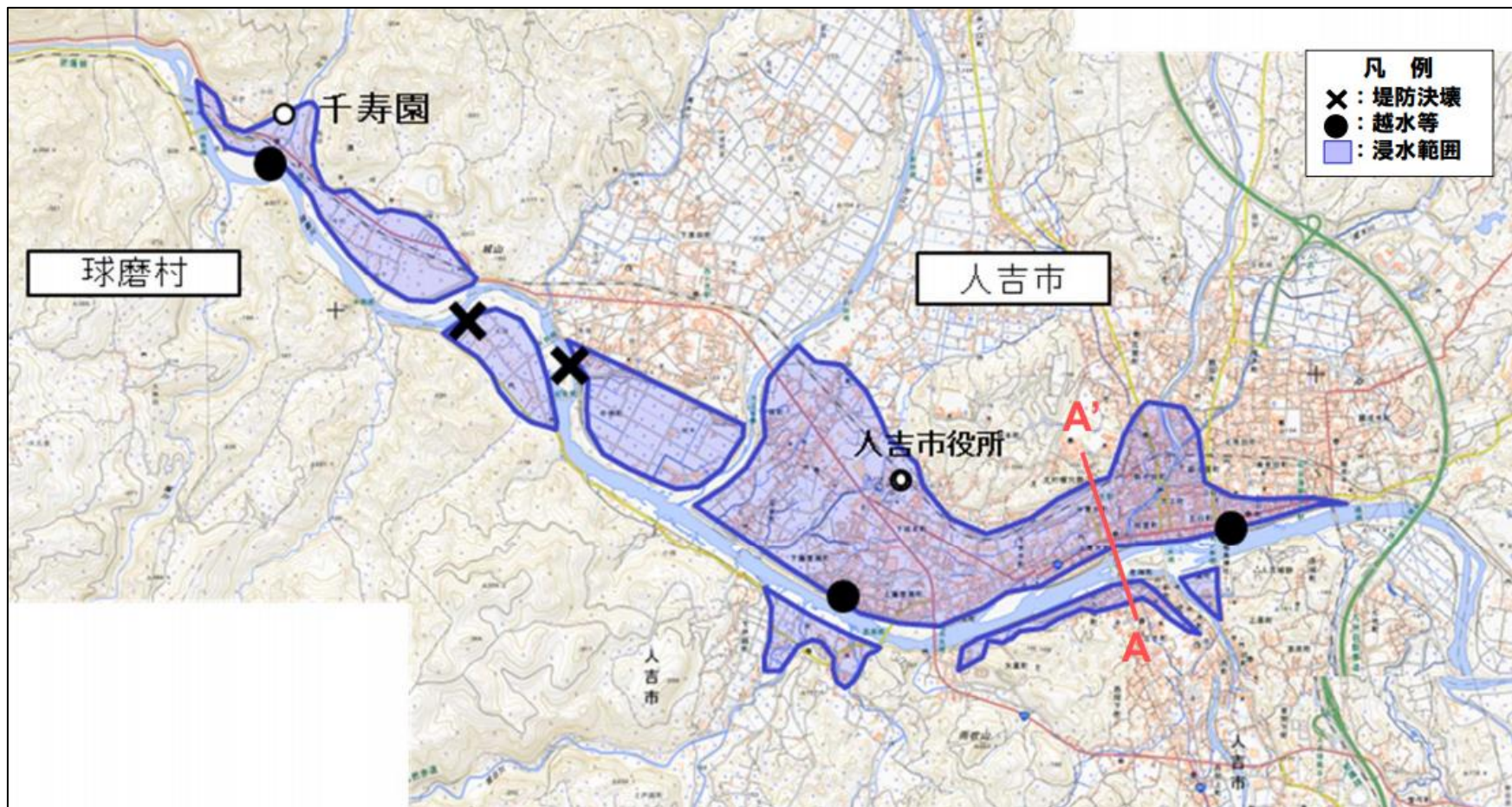
- 球磨川流域の犠牲者(50名)の発生場所の状況※については下図のとおり。
- 人吉市の犠牲者(20名)は、概ね浸水範囲と一致し、浸水範囲が広い右岸側に集中している。
- ※発生場所については、熊本県災害対策本部会議資料(熊本県警察本部提供資料)の「住所」に基づき集計したものを記載。



※浸水範囲は国土交通省調査に基づき、※被害内容については、今後、変わる可能性があります。

出典：「第1回令和2年7月球磨川豪雨検証委員会 説明資料」(九州地方整備局・熊本県)

▼令和2年7月豪雨の人吉市、球磨村浸水区域



出典：資料「令和2年7月豪雨による被害と対応」（国土交通省）

【令和2年7月豪雨時に被災した西瀬橋】

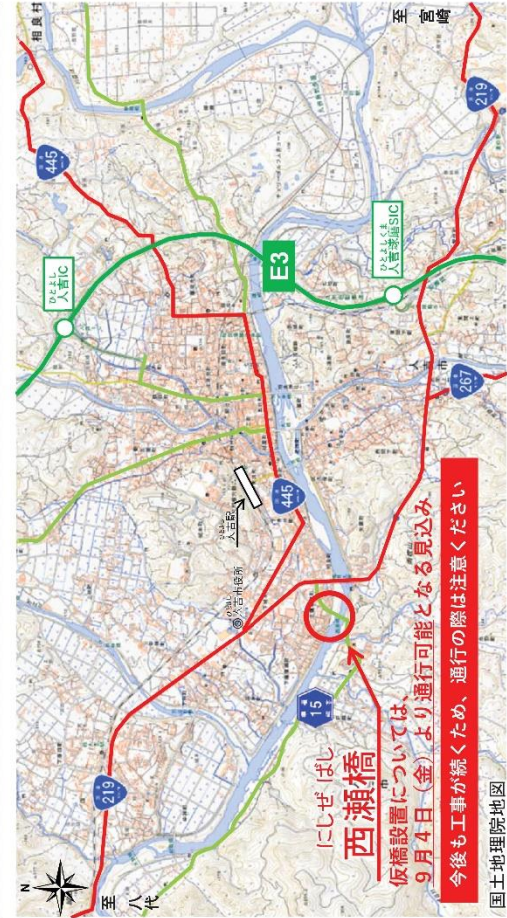
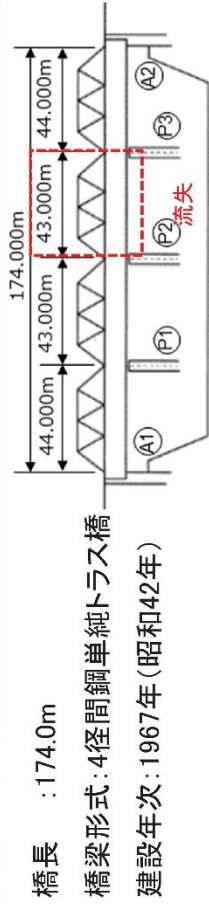
主要地方道 人吉水保線 西瀬橋 仮橋設置状況

にしぜ ばし

＜被災状況概要＞

- 上部工:P2～P3間 約43m流失
- 下部工:A2側護岸流失
- ＜応急復旧＞
- 応急組立橋による仮橋架設

■ 西瀬橋諸元



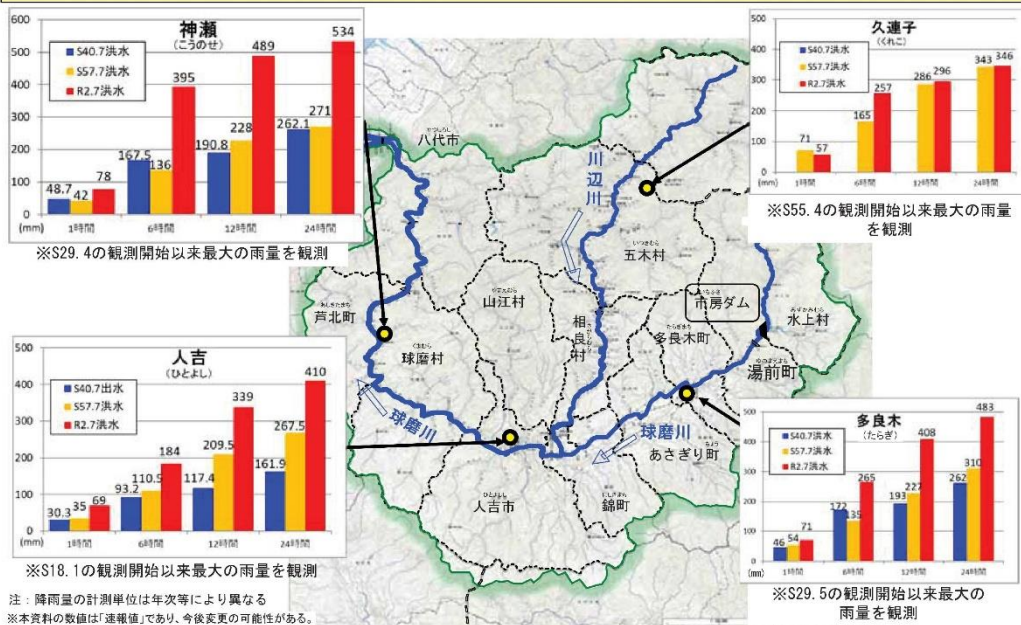
現在、500tクレーンによるベント設置中

出典:「九州地方整備局記者発表資料」(九州地方整備局・熊本県)

【令和2年7月豪雨と過去水害との比較】

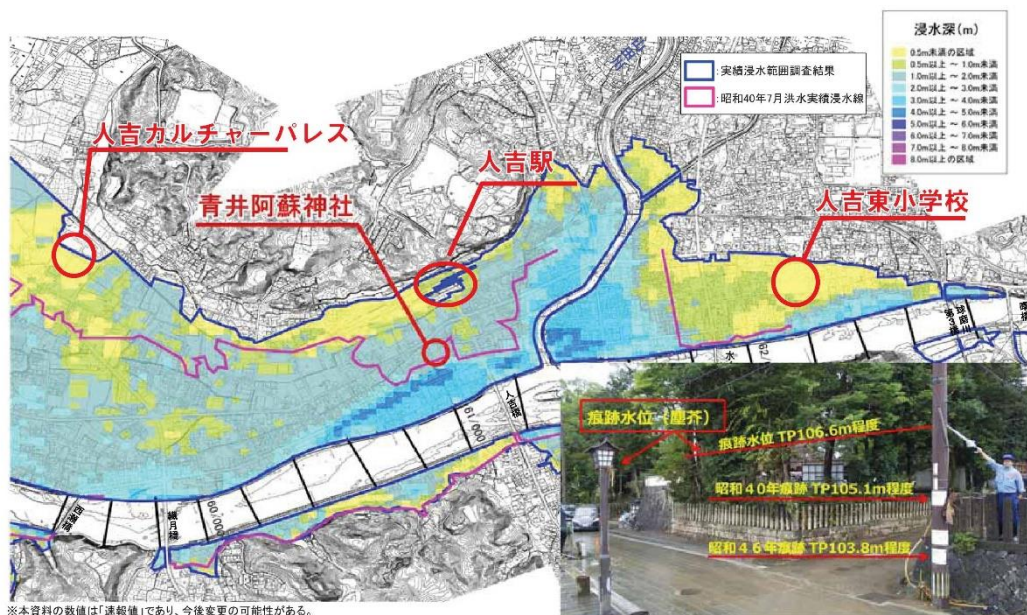
1. 令和2年7月豪雨の概要（観測雨量） 4

○球磨川本川の中流部から上流部及び最大支川の川辺川の各雨量観測所における降雨量は、6時間雨量、12時間雨量及び24時間雨量において、戦後最大の洪水被害をもたらした昭和40年7月洪水や昭和57年7月洪水を上回る降雨を記録した。



2. 令和2年7月豪雨の被害状況（人吉市街部） 26

○青井阿蘇神社付近では、S40.7洪水時よりも約1.5m深い浸水深であった。
○S40.7洪水時に浸水が無かった人吉駅や人吉カルチャーパレス、人吉東小学校においてもR2.7洪水時には浸水が確認されており、広範囲の浸水被害となった。



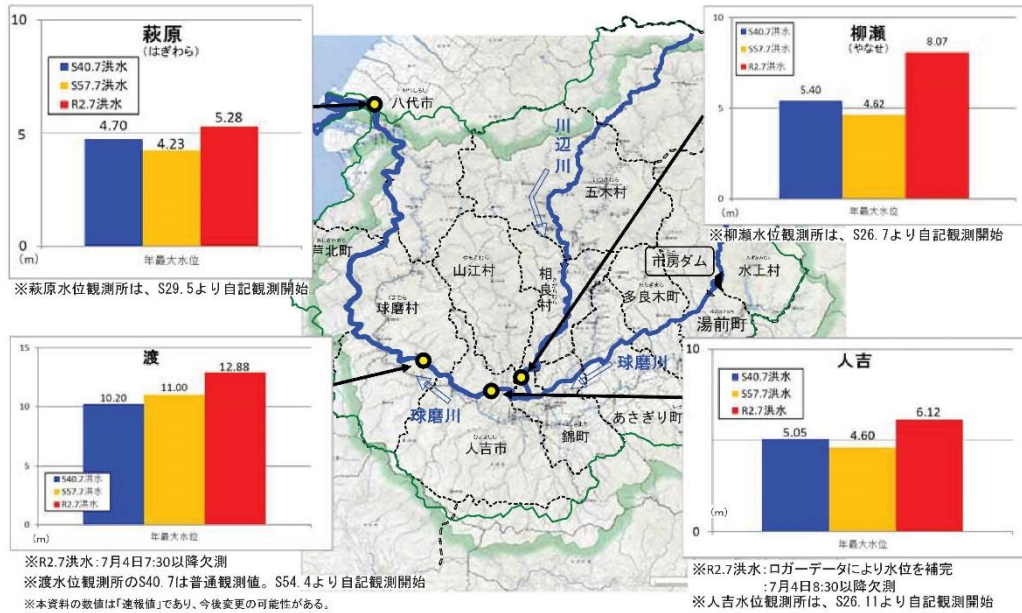
※本資料の数値は「速報値」であり、今後変更の可能性がある。

出典：「第1回令和2年7月球磨川豪雨検証委員会 説明資料」（九州地方整備局・熊本県）

1. 令和2年7月豪雨の概要(国管理区間の観測水位)

8

○球磨川本川の下流部から中上流部及び支川川辺川(国管理区間)の各水位観測所において、戦後最大の洪水被害をもたらした昭和40年7月洪水や昭和57年7月洪水を上回る水位を記録し、萩原、渡、人吉、柳瀬のいずれも観測開始以来最高水位を記録した。



出典:「第1回令和2年7月球磨川豪雨検証委員会 説明資料」(九州地方整備局・熊本県)

▼球磨川水系既往洪水の概要

洪水発生年		原因	洪水被害の概要
昭和2年	1927年	—	家屋損壊・流出32戸 浸水家屋 500戸
昭和19年	1944年	—	家屋損壊・流出507戸 床上浸水1,422戸
昭和29年	1954年	台風	家屋損壊・流出106戸 床上浸水562戸
昭和38年	1963年	前線	家屋損壊・流出281戸 床上浸水1,185戸、床下浸水3,430戸
昭和39年	1964年	台風	家屋損壊・流出44戸 床上浸水753戸、床下浸水893戸
昭和40年	1965年	梅雨	家屋損壊・流出1,281戸 床上浸水2,751戸、床下浸水10,074戸
昭和46年	1971年	台風	家屋損壊・流出209戸 床上浸水1,332戸、床下浸水1,315戸
昭和47年	1972年	梅雨	家屋損壊・流出64戸 床上浸水2,447戸、床下浸水12,164戸
昭和57年	1982年	梅雨	家屋損壊・流出47戸 床上浸水1,113戸、床下浸水4,044戸
平成11年	1999年	台風	床上浸水3戸、床下浸水20戸
平成16年	2004年	台風	床上浸水13戸、床下浸水36戸
平成17年	2005年	台風	床上浸水46戸、床下浸水73戸
平成18年	2006年	梅雨	床上浸水41戸、床下浸水39戸
平成20年	2008年	梅雨	床上浸水18戸、床下浸水15戸
平成23年	2011年	梅雨	床上浸水4戸、床下浸水4戸
令和2年	2020年	梅雨	床上浸水4戸、床下浸水5戸

出典：「過去の洪水」九州地方整備局 八代河川国道事務所 HP